

# 海の中道海浜公園におけるユニバーサルデザインの取り組みについて

国営海の中道海浜公園事務所 調査設計課

- ◎見市 貴司
- 深浦 貴之
- 前田 修蔵
- 田中 希依

## 1. はじめに

海の中道海浜公園は、福岡市東区の博多湾と玄界灘を隔てる半島「海の中道」において、北部九州における広域的レクリエーション利用、「白砂青松」の良好な自然環境の保全を目的に、我が国5番目の国営公園として整備を進めている大規模都市公園である。

面積は540ha、供用面積は293ha、公園内にはマリンワールド（水族館）やホテル・青少年海の家（研修施設）等の多種多様な施設がそろっており、平成27年度は220万人に利用されている。（図-1）

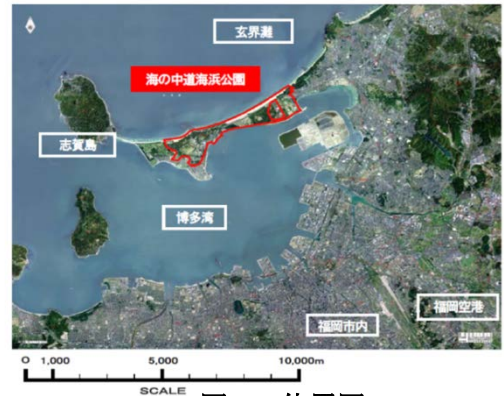


図-1 位置図

平成18年にバリアフリー新法が施行され、すべての人にとって使いやすい場所としてユニバーサルデザイン（以下、UDとする）の取り組みを平成20年度から行っている。本論文では、海の中道海浜公園におけるUDの取り組みについて紹介する。

## 2. 経緯

これまでの経緯については、図-2に示すとおりである。平成18年施行のバリアフリー新法を受け、平成19年度に有識者・学識者からなるUD検討委員会を設置し、本公園のUDにおける基本理念、考え方（図-3）を決定した。平成20年度から平成24年度まで5箇年アクションプログラムを策定・実行し、平成25年度からはスパイラルアップとしてPDCAサイクルに基づき、重点項目を選定してUD対応の取り組みが実施されているか検証を行った。

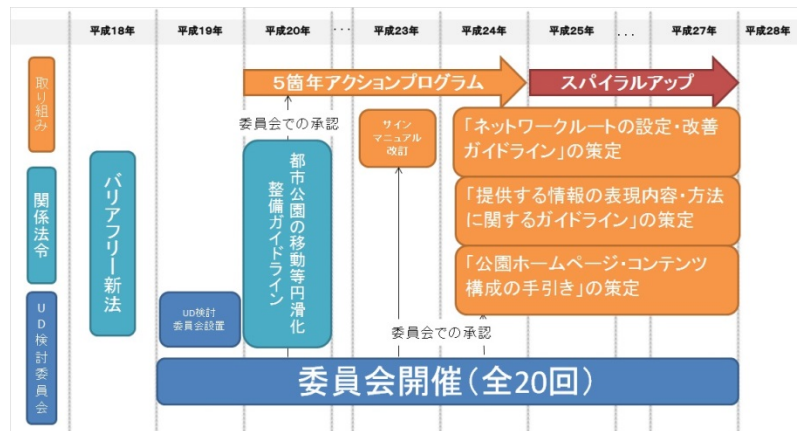


図-2 UDの取り組みの経緯

## 3. 5箇年アクションプログラム

平成19年度に検討し、UD検討委員会にて有識者の方の意見を参考にし、対策項目と内容を決定し、5箇年アクションプログラム（表-1）を策定した。

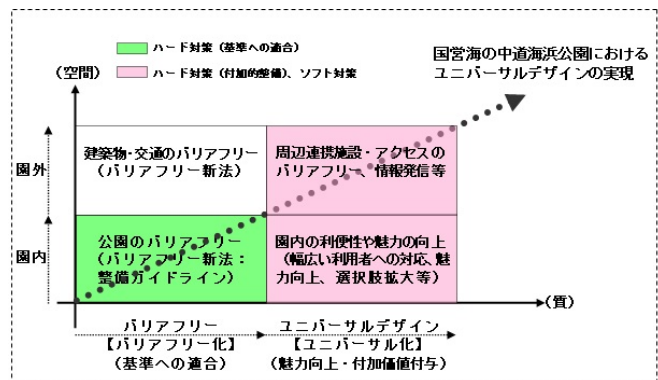


図-3 基本的な考え方

表-1 5箇年アクションプログラム対策項目

種別	対策項目	対策内容
園内施設	1 ネットワークルートの設定・改善	五感で楽しめるおすすめルート作り
	2 暑さ対策の実施	夏期を中心に誰もが利用しやすい休憩場所となる日陰の確保
	3 施設の利便性向上(ベンチ配置改善)	特に長期間滞在する場合に最低限必要な施設の確保や利便性の向上
	4 施設の利便性向上(トイレ改善)	
	5 施設の利便性向上(授乳室の設置)	
情報提供	6 情報提供システム全体の再構築	誰もが入手しやすく分かりやすい情報の提供を目指して情報提供システム全体の再構築
	7 通り名で道案内	通り名で道案内
	8 サインシステムの再構築による情報提供の改善	公園内に設置する掲示板や標識、表示による情報提供の改善
	9 パンフレット等による情報提供の改善	パンフレットやリーフレット、チラシによる情報提供の改善
	10 Webサイトによる情報提供の改善	できる、できない等困難性の情報提供、アクティビティベースの情報提供、公園に来るまでの情報提供の充実
利用性の向上/利用プログラム	11 参加型プログラム等・セルフガイド型プログラム	介助の必要な方でも気軽に参加できる参加型プログラムの作成、公園を一人でも楽しめるセルフガイド型プログラムの充実
利用性の向上/利用サポート	12 公園スタッフのサポート技術の向上	公園スタッフ一人ひとりの障がいを持たれた方への基本的な接し方やサポート技術の向上

具体的な対策内容についていくつか紹介する。①ネットワークルートの設定・改善(図-4)においては、初めての利用者でも広い園内を季節ごとに五感で楽しめるように「おすすめ施設マップ」を作成した。これは、スパイラルアップ対象項目であるため、詳細は後述する。②「暑さ対策の実施」(写真-1)は、夏期を中心に誰もが利用しやすい休憩場所となる日陰の確保を目指し、園内の高木の下枝伐採を行い、緑陰スペースを確保し、③施設の利便性向上(ベンチ配置改善)の一環として、そのスペースに移動式のベンチ等を設置できるようにした。イベント実時や季節、状況に応じて利用者が多いエリアを把握の上、ベンチの配置の調整を行っている。

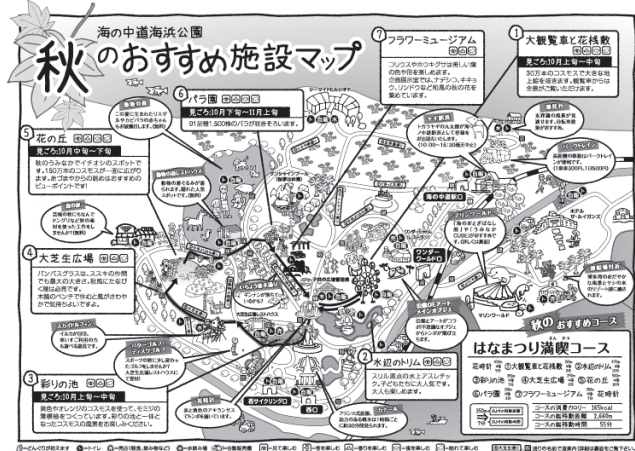


図-4 おすすめ施設マップ(H24 秋)

④施設の利便性向上(トイレ改善)として、平成19年度以降、トイレ改修を進め、平成21年度にはトイレマップカルテを作成し、今後の改修の優先順位を提案した。平成23年以降は多目的トイレのUD化に向けた検討を進め、平成19年以降整備が必要な49箇所中のトイレ中29箇所の改修が行われた。

⑨公園ガイドマップの改訂を行った。園内・園外の4カ国語(日・韓・中・英)対応の公園ガイドを作成し、サイズもB4折からA3折りに拡大して配布を開始した。主な改善点は図-6の通りである。



写真2 移動可能なベンチ



写真3 トイレのUD化



写真1 伐採による暑さ対策

#### 4. スパイラルアップ

「すべての来園者がより一層気持ちよく楽しめるようにするために、来園者の評価・ニーズを収集し、サービス等を継続的に改善する」スパイラルアップの仕組みを、平成24年度のUD検討委員会にて設定した。

スパイラルアップ対象項目は、5箇年アクションプログラムの対策項目より、委員会等の協議の結果、継続して対策が必要であるとした項目の中からソフト対策にあたる5項目を選定した。(表-2)

ソフト対策を選定した理由として、お客様の満足度を向上させる為には、接客を行うスタッフの質の向上、直接手に取るツールであるマップやホームページ等の改善と言ったソフト面の質を向上させることが重要であり、ハード対策はソフト対策に付随するとの考えから、今回のスパイラルアップではソフト対策のみを検証の対象とした。



図6 公園ガイド(改訂前)

番号	対策項目	対策内容
①	ネットワークルートの設定・改善	五感で楽しめるおすすめルートづくり
②	暑さ対策の実施	夏季を中心に誰もが利用しやすい休憩場所となる日陰の確保
③	施設の利便性の向上(ベンチ配置改善)	特に長時間滞在する場合に最低限必要な施設の確保や利便性の向上
④	施設の利便性の向上(トイレ改善)	
⑤	施設の利便性向上(授乳室の確保)	
⑥	情報提供システム全体の再構築	誰もが入手しやすく分かりやすい情報の提供を目指して情報提供システム全体の再構築
⑦	通り名で道案内	通り名で道案内
⑧	サインシステムの再構築による情報提供の改善	公園内に設置する掲示板や標識、表示による情報提供の改善
⑨	パンフレット等による情報提供の改善	パンフレットやリーフレット、チラシによる情報提供の改善
⑩	Webサイトによる情報提供の改善	できる、できない等困難性の情報提供、アクティビティベースの情報提供、公園にくるまでの情報提供の充実
⑪	参加型プログラム等・セルフガイド型プログラム	介助が必要な方でも気軽に参加できる参加型プログラムの作成、公園を一人でも楽しめるセルフガイド型のプログラムの充実
⑫	公園スタッフのサポート技術の向上	公園スタッフ一人ひとりの障がいを持たれた方への基本的な接し方やサポート技術の向上

表2 スパイラルアップ対象項目

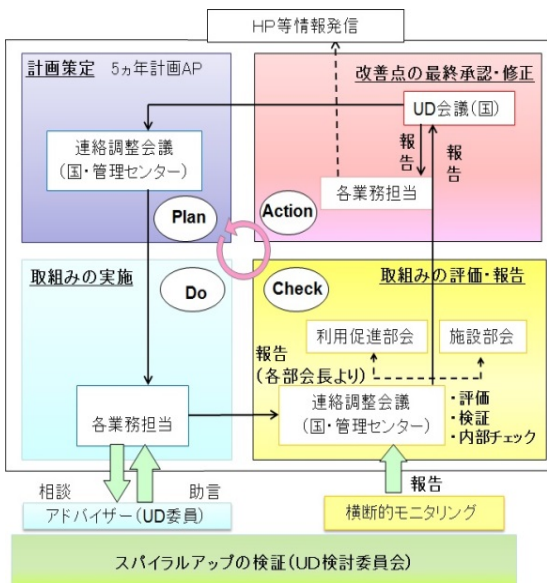


図7 スパイラルアップの仕組み

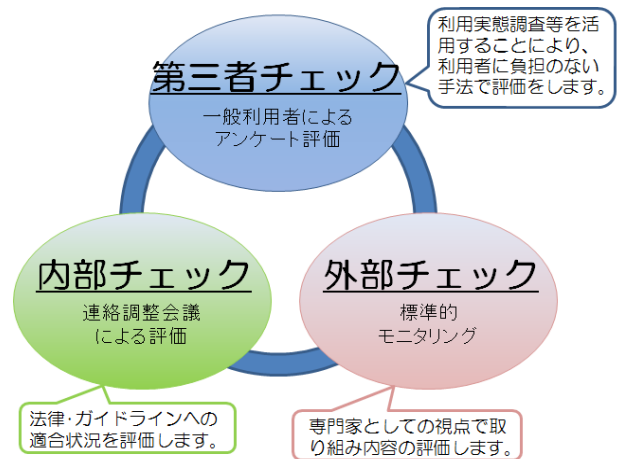


図8 スパイラルアップのチェックの仕組み

スパイラルアップの仕組みは、国事務所・管理委託者による会議で年度の取り組み内容を決定し(Plan)、その取り組みの実施(Do)、横断的モニタリング等の体制で取り組み内容の評価・報告を行い(Check)、結果を基に次年度に向けた改善案(Action)をUD検討委員会での意見を元に作成する流れで行った。(図-7)

チェックの際には、内部と外部の評価だけでなく、公園利用の第三者も含めた三者の多様で客観的な視点による評価を基本として行った。(図-8)

#### 4. 1 ネットワークルートの設定・改善

横断的モニタリングを実施し、利用者の声やUD会議での意見を反映しながら「おすすめ施設マップ」の改善を行った。主な改善点として、文字量を減らし写真を増やす、表面のカラー化、ベースマップの大きさを拡大する等の工夫を行った。



図 9 おすすめ施設マップの改善

#### 4. 2 パンフレット等による情報提供の改善

チラシは、来園動機につながるツールであるため、様々な方が利用できることが分かるように、小さな子どもが利用している写真や車いすでの利用状況、イベントの紹介等、情報提供の工夫を行った。平成 27 年度利用実態調査では、来園動機（媒体）のチラシ率は平均 17.1%（前年度 21.8%、目標：25%）であり、目標達成に至らなかったものの、ファミリー層の来園動機のチラシ率は高く、ファミリー層が利用しやすい情報を掲載したチラシ紙面構成が出来ている為だと考えられる。



図-10 チラシ例  
(子どもでも遊べるイベント紹介)

#### 4. 3 Web サイトによる情報提供の改善

「公園 HP・コンテンツ構成の手引き(H24)」を策定し、HP に UD 情報を掲載し、全ての方々が安心して来園することができる公園であることの情報発信を行った。また、UD ブログ等 5 つのカテゴリ別ブログを運営し、より細やかな情報発信に努めた。

平成 26 年 12 月～平成 27 年 11 月までの公式 HP のアクセス数は、平成 24 年 12 月～平成 25 年 11 月期と比較し 1.14 倍に増加している。UD ブログへは 2.37 倍、UD 情報に関するページへは 3 倍にアクセス数が増加しているが、モニタリング調査では表現の分かりにくさやスマートフォン・タブレット端末からは見づらい、インバウンド向け情報が少ない等の課題点があり、今後もより良い HP 作りに向けた取り組みを継続して行う必要がある。



図-11 公式 HP の UD 情報



図-12 5つの公式ブログ

#### 4. 4 参加型プログラム等・セルフガイド型プログラム

障がいを持った方でも気軽に参加できるプログラムを立案し、五感を使い、一人でも楽しめるセルフガイド型プログラムの充実を図った。(写真-4) 園内のガイドツアーは車椅子や電動カートをご利用のお客様にもご参加頂いており、参加者アンケートでは9割以上の方に「非常に満足」との回答を頂いている。

#### 4. 5 スタッフのサポート技術の向上

来園者に対応する公園スタッフ一人ひとりの障がいを持った方への基本的な接し方やサポート技術の向上を目指し、講習会を計画した。平成27年度は、「車椅子介助についての実地講習」「ユニバーサルデザインセミナー」を実施した。(写真-5、図-13)



写真4 チューリップガイドツアー



写真5 講習会の様子



図13 開催要領

### 5. 検証結果

スパイラルアップの取り組み効果の検証のため、5項目中、「ネットワークルートの改善(おすすめ施設マップ)」「Webサイトによる情報提供の改善」の2項目のモニタリング調査を行った。本項では、ネットワークルートの設定・改善についての結果を紹介する。

調査日時：平成27年10月17日(土) 9:40~12:00

調査対象者：50サンプル(表-3参照)

調査方法：調査対象者に対応した「おすすめ施設マップ」の「おすすめ施設コース」(2コース)からコースを選択してもらい、選択したコースについて、魅力的なコースや内容になっているか、分かりやすいものになっているか、さらに工夫した方がよい点等についての意見の傾向、課題等を把握する。

表3 モニタリング調査対象者

「ネットワークルートの設定・改善」:50サンプル

障がい者	10名
介助者	10名
高齢者	9名
乳幼児連れの方	10名
その他一般の方	11名

#### 5. 1 モニタリング結果

##### 【おすすめ施設マップの今後の利用】

平成27年度調査では、①とても利用したいの割合は7割を越え、おすすめ施設マップのデザイン・レイアウトは多くの方にご満足頂けるものになったと考えられる。おすすめ施設マップを今後利用したくないとのご意見は年々減少し、平成26調査以降⑤全く利用したくないというご意見は0になった。

##### 【授乳室の案内表示に気づいたか】

平成26年度以降、モニタリング調査での調査項目

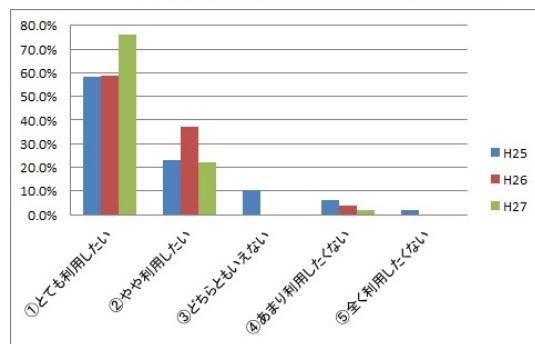


図14 おすすめ施設マップの今後の利用

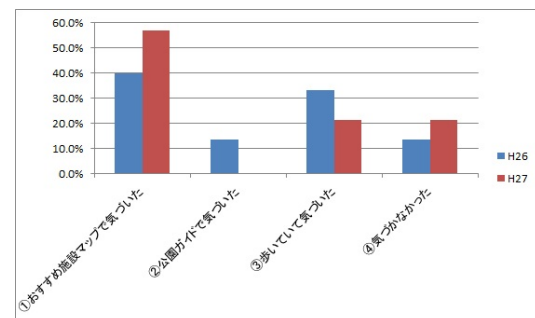


図15 授乳室の表示案内に気づいたか

に追加した。平成 27 年度にはおすすめ施設マップを見て授乳室（赤ちゃんの駅）の存在に気づいた人が増加しているものの、授乳室に気づかなかったとの回答も増加しており、今後の課題と言える。

#### 【デザイン・レイアウト】

3年間で①とてもわかりやすい、②まあわかりやすいの回答割合が増加し、④ややわかりにくい、⑤とてもわかりにくいには減少している。平成 27 年度調査では、⑤とてもわかりにくいには0になっており、デザイン・レイアウトの見やすさは概ね完成形に至ったと言える。

### 6. 今後の課題

平成 27 年度に実施した「障がい者と外国人によるモニタリング調査」の結果、外国人の利用客から園内のサイン標記がわかりにくいとの意見が複数出ている。また、平成 27 年 8 月観覧車を撤去したことにより、園内のランドマークがなくなり、道に迷う利用客が増加している。

今後はサインに頼らない案内をより特化していくことで、すべての人にとってわかりやすい案内を提案することが課題と言える。

### 7. まとめ

平成 19 年度以降トイレのバリアフリー化等 UD 対策に取り組んだ結果、障がい者の来園者数が平成 19 年度 8,035 人であったのが、平成 27 年度は 14,791 人となり、1.84 倍に増加している。これは、本公園の UD の取り組みが、広く障がいをもたれた方に支持頂けている為ではないかと考える。

また、平成 27 年度に行った見通しの確保の為の伐採等、効果が見られる取り組みは今後も継続して行っていく必要がある。

一方で、外国人の入園者数は年々増加していき、サインの多言語化、サインに頼らない案内等、本公園の UD 対策の一環としてインバウンド対策などを検討していく必要がある。

社会環境の変化やニーズに応じてスパイラルアップ項目を適宜見直し、すべての人にとって楽しめる公園の整備を進め公園に新たな魅力を作り出すことで、ひいては公園利用者の増加に繋がるのではないかと期待する。



図 16 授乳室の表記（おすすめ施設マップ）

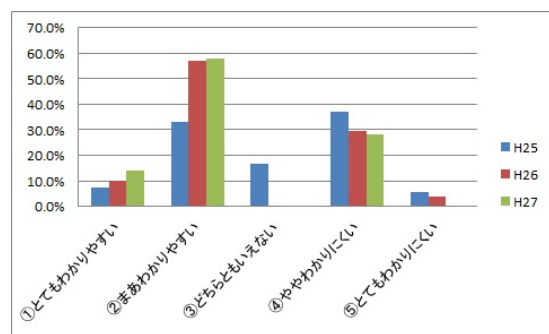


図 17 デザイン・レイアウト

【5 箇年アクションプログラム策定時の目標】  
平成 19 年度より障がい者の来園者数 1.5 倍

※平成 26 年度に目標達成

平成 19 年 8,035 人 → 平成 27 年 14,791 人 (1.84 倍)

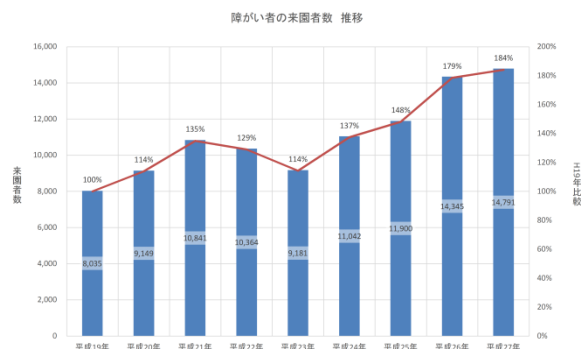


図 18 障がい者の来園者数推移



写真 6 伐採による見通しの確保